

ジェイソン・エドワード・カウフマン

パトリア・オリニックは人体デッサン、版画、紙作りの達人である。オリニックの技術は日本で伝統芸術を学びながら研がれたが、同時に彼女は、写真製版による複製やデジタル画像作成など、先端技術をたくみに作品制作に用いる。オリニックは、古来のクラフツマンシップと先端の技術を軽やかに融合し、ミクスト・メディアのアッサンブラージュ、コラージュ版画、アコーディオン式の本など、華麗で洗練された作品を作りあげる。それらは美しい手作りの作品であるが、それ以上に、より壮大な思想を示唆している。

オリニックの視覚世界に棲む頭蓋骨、貝がら、種のからなどに、悲哀とか、感傷などの感覚は、本質的に存在しない。しかし彼女の芸術において、これらのモチーフは時間の経過を表現する媒体となっている。はかない人生の苦痛と、この世界を理解しようとするわれわれのむなしい努力を感じさせる。自然のモチーフと数百年前の科学や神秘学の本から引用されたテキストやイラストをあわせることで、また夜の雰囲気がたゞよう画面にさまざまな要素を配置することによって、日常的な事物を変ぼうさせようとする。夜想的な画面は、よく読みこまれたためにかどが折れて黄ばんだ聖書か錬金術のテキストを連想させるような、哀調をおびた古めかしさを彼女の作品に与えている。

積み重ね（レイヤリング）は、オリニックの作品において触媒的な役割をもっている。まずイメージを集め、手すきの半透明な紙にそれをはり付ける。つぎにオリニック独自の順序で、その紙をさまざまな支持体にコラージュしていく。ときには靴の木型や、錬鉄製のくま手など、アンティークの人工物を付着する。その結果、明るく透きとおるような深みのなかにモチーフが混じりあった、重層的なコンポジションができあがる。ハイブリッドの形象が、予期しなかった連想や関係を想起させながら、層のなかから浮かびあがる。積み重ねの過程から、空間的な層だけではなく、時間と成長の感覚が生まれる。イメージやテキストの累積は、科学の知識や認識 — つまり意識そのもの — が、それ以前にあったものの上に組み立てられていく過程のメタファーになっている。そうやって、心のうちに彼女のイメージが結合し、混然するプロセスは、人間の知識の発展を視覚的に表現したものといえよう。

形象そのものが思想史の段階を反復している。オリニックの作品に表われる図解は、自然物や人間を厳密に測定しようとしたルネサンス時代の情熱をうかがわせる。また素材を整然と配列する傾向は、世界を分類しようとしたエンライトメント（啓蒙運動）時代の嗜好を示している。しかしまたオリニックは、科学を美化し、科学的な崇高さを呼びさまそうとしたロマン派時代の特徴も兼ねそなえている。彼女は科学知識の付属物を引用するが、それらの根源にある壮大さや神秘感をこえて、特別な真実をあばこうとはしない。彼女の視覚世界では、知識はたんに美の探究へ奉仕しているにすぎない。それは、オリニックのファウスト的な問いかけの源泉なのだ。何千年もかけて真実を追いもとめ、われわれ人間は、われわれがだれで、どこから来て、どこへ行くのか、より理解しているだろうか？ わかりきったことだが、答えは否だ。そしてオリニックの芸術は、この永遠に答えのだせないわれわれの状態を映しだしているのである。彼女の芸術世界では、さまざまなかたちや注釈が、セピア色の夢想世界を背景として、混じりあってはさまよい、科学史のなかの忘れられた発見や、原初的な欲望へノスタルジックなまなざしをむけることを誘う。しかし最終的に、われわれは謎のなかに残される。

オリニックの作品をみる多くの楽しさのひとつは、それらが自然と文化のあいだの調和のとれた構造を照らしだしていることである。いっぽうで、彼女の生物モチーフや、血のような赤、土色、鉱物性の灰色や緑色は、自然界のイメージである。しかし他方で、精確に描かれた図やテキストは人間の文明を示している。これは、古典的な精神と物質の対峙である。たとえば貝殻の形を思わせるラビリンス、海生物を思わせる道具など、オリニックは相応関係を示唆する。まるで、じつは人間と自然はひとつの、地つづきのフィールドにあらわれた、異なった要素であるとしてもいいが、こういったフィールドの探究をつづけるオリニックは、ここ数年、第一線の物理学者、遺伝学者など、いわゆるライフ・サイエンスとよばれる分野の先端で活躍する研究者と交流をもつようになった。この分野のうえにほんやりと漂うのは、精神性（スピリチュアリティ）への関心である。オリニックは特別に宗教心のある人ではないが、彼女の作品のあふれるような輝き、ほんのりとしたあたたかさは、神の内蔵性、この世界を形つづけているより大きな力、存在するのがわかるけれど手の届かないところにある力を、われわれに感じさせてくれるのである。

（翻訳：及部奈津）